湖月抄

あとのまき

北

内閣文庫

槿

細 巻名、寿、再、詞、ふる、号、定、ふる、寿、よ、八、み、中、ち

の家、ふ、れ、ぬ、あ、さ、ぢ、の、花、乃、ち、ら、へ、る、や、ま、ち、ん、ね、よ

い、れ、ら、花、ら、も、の、中、ま、あ、さ、ぢ、は、の、こ、れ、ま、る、よ、ひ、ゆ、し

ら、れ、く、ま、わ、り 西 源氏 北一 巻 九月、ち、み、ま、ぐ、の、ま、あ

つ、雲、の、巻、の、末、と、同、年、ち、り、家、内、官 細 準 同

秋、院、は、は、ず、く、そ、ま、ち、る、ま、ひ、ま、さ、し、れ 巻

の、巻、の、末、よ、式、ア、の、ま、も、

ま、ち、ま、ち、ま、ち、

みな月よりてうぐの文　細宣胤よりてうぐの文ハ今の仏ぐるまの法　桃園ハ今の仏ぐるまの法　桃園ハ今の仏ぐるまの法　桃園ハ今の仏ぐるまの法

よ桃園を文よりてうぐの文　細宣胤よりてうぐの文ハ今の仏ぐるまの法　桃園ハ今の仏ぐるまの法　桃園ハ今の仏ぐるまの法　桃園ハ今の仏ぐるまの法

西一条面中許世尊寺南師氏大納言宅也保光中納言代明親王男　傳領仍号桃園中納言

今業敦固親王夏狩延喜帝御連枝并九月晦日薨逝夏等相似　ぬ二品兵部卿固定平朝臣四

御子母延喜三月延長五年九月七日薨ス西大和地院より桃園を給ひて住ませ給ひ九月晦日

ゆ作りよ。やてこの山方よりてうぐ山かくれの秋のてぐるまいとで見

くてうぐん拾遺集よ桃園をよ作りて弟敦院庚風よ見え　ゆゆのいもが衣よ移衣ゆゆとも

ともてうぐ　細　武部卿文市連拾也　孟斉院の伯母ゆ

女の文　細　武部卿文市連拾也　孟斉院の伯母ゆ

このことてうぐ　ぬ　女のみこのるゝと相帝のんこと　孟相続して法の同ゆ

今をたてうぐ　細　法ゆ　てうぐ　大伯よ思給へ　孟相続して法の同ゆ

ゆのてうぐん　細　桃園の方よハ女の文作給へ　仲　女ハ小撰ハ西よ作給へ

行ゆ　ぬ　細　武部卿文蔵し給て行も　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

くてうぐ　細　武部卿文蔵し給て行も　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

て

いとしく　細　女房の局
命をぐして源氏のうろ
ひみどのすえやすやすと
ものしうおぼえ　光相夏帝
前御門源氏源氏よりも
きびのうらく
うくてせよ立ぬり
細　源の上立ぬり給てく
さえうふと云給はん命
みぐさもひわるやうに
作らとく
ミなりうそてきーうい
孟　源氏ものさ時うをそく
曲をうーんと作らるなり
ーーどの野分巻　細　きむり
ひて源をあの給　作給
ちむひてあまるこ
みぐまーーよーうく
うみどのるよりう

いてまるく
のかわ源氏
おくーく書のこと
ぶとくはひ
孟　女の巻
と
いとしく
きびのうらく
ひ命みぐさ
くてうよ
わらしそ
ちわーく
きそいと
うるれ
源の童の所のうく
りーとこ
りさせよりうひうのいぞおくーきる

ーーうくこをうこよ
まりてあさゆふよりあの
らせてとなり

ーーうくこをうひて
細　源のムの中之　作法とう
やうにーーひひてことうく
よりひろやうのすいかや
ーこの人いをあるすうを
代女の美い源の伯母うれい
ゆんのゆーよ美よいうーく
かかせいうくのすいと源いお
しーくかわとく
ーうのかーーうい　孟　冷の巻
幸と源ーうのえん
いてうく似ならせまこと
わらしーを苦
わやーーされそーう
細　ーうもそーうら
人とわらしーを養うり
問とうんなーうい　細　女房の局

ーーうれ作ーとーーくこをあるる
細　冷泉院源氏
ぐるゆーしーくえく作りてうん門のうん
ーく似給
うんいーう
ゆーとーうくよりなーとまるるとーんぐーーこと
細　源よりいをーーうう源ーーー

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河内国 神主 神官 雨雅

ありし世はみるまでよ
細 四ようの歌 [illegible] 歌枕の名所 人傳 [illegible] 宮の [illegible] 面白さ
極くさ [illegible]
らくるまとは 細 年月の労
[illegible]
けりこそさぶめりぬ
細 源の身上 [illegible]
不定なる也
人なれを 細 年月は歌枕
[illegible]
のうつくしみも思給わるに
とは純陽なる [illegible]
のゆるしとは [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

えさう東南の風をいつく稜の風と一切の穢氣と稜除の義と 祓はらへ稜くは出給と用ひつ
とう八方のこの風よまうせしりさみすらんぬるんん大海のくらは 中臣稜云科戸乃風乃竟方に吹こと乃
八重雲 吹放 事乃 如久云云 先代舊事本記云伊弉諾尊曰我所生也國唯有朝霧
而薄之滿 矣乃吹 撥 く氣化為神 号謂風神也 神名級長津彦命次級長戸辺神
仰 妖霧よはらへせし内こそ男女の道をもちうひ罷もあるくれ今てありぬるいをつみの
うくひのうれをうくれ八原よるひさのふてもらうくうくしのく
えそさを祓ハ 細 原の初 えせ下のみそさを祓いうあすうらんをうく罷みうくして人を
ちちうくハ罷みうくいうあうらうく爽日一伝 ちちを祓いうえうら宣命みて 斎院
へ中初く 原氏の志里まうでうう ふやまつうく志まーのは稜と祓もうあうく
をとうはんばるどくうるさうれ とやも斎院のはん寮法うれいまうやうよい
せうるぬはさう後 細 伊勢院ハ人をうくううくくんよりひく方のんごいさうーうり
えをうりかやめり
細 さうふんくのえをう
なやむし 初 斎院のうび
うくのうるぬうをは寮生
のいうとうつし
すさくしさやうよ
細 今東いん人のうよ而をは
て立給つく
せうるぬやつまを 細 原氏
根をうる初く引方思の門
今そ之の出てみよ志うる
人のなれうすうとぜそて

ぬやうまとハしあうさ稜のとうふんくは志まうう
人のうまうもうとしをうよはそうまうぬやつまとのまうり今うそうりいそうえ
うそやうんやうもうさうと初をくあうらひまをうくうう初く

仰 原氏はうまうしうさ 細 原氏
うえして 毎給 細 斎院はうまうまれ時よ
ようう給しうこをうあ給
えおひしうう原のんうく
中通ひうひうをを斎院の
女房をの必ずうえし毛月

ぬやうまとハしあうさ稜のとうふんくは志まうう
人のうまうもうとしをうよはそうまうぬやつまとのまうり今うそうりいそうえ
うそやうんやうもうさうと初をくあうらひまをうくうう初く

まそそぐうをうをうさうみすくくやえをりてうう給
ひうをうそ。必給うるうう。家をうさまそて例のさ
そうあうう。細 九月廿ろうこ 坊をうこの愛をあうしうう毎どう。
本の聖乃言るひまつけうくも。をうさあうりの
れ義をうをうしうつくそのあうりうあうしうくを
表ふをあうくうて給しはうをうんるどもふ
ひ出をうくうくます。細 毛ハ原のはうく
ふいうしてねがあうらよはばしうつけうう。
格まをあうう
をうをううしまうくをのて。細 勇をうをう。
れうる毛どもの中ふ。あさうふのうれれ

あさうりのうれうまを
細 九月廿日 盂樓のこと
おりうく書せうるうりひ
とハ久のうく久の白義秋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世のなかのようす　細くくんぢき所よ　孟　ぢうよつまるくすりもせ
ハこしよわくくもくくくくもくも孟のやうにくく
世界にりんぢくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]くとひきて
細川ながらく
[illegible]のいく
細川の鑰のくちてさび
つくしの[illegible]行[illegible]馬[illegible]
生駒[illegible]用[illegible]仰鎖[illegible]難
[illegible]白桑天
[illegible]
細[illegible]表紙[illegible]
[illegible]

ひらけずさいぞうてとこみをえうけや
らどこれしりはのかりとこるさな
るべしぶぶくとみてぞやこのいと
いくさびよくれいがうどとこれみを
わくれとこうめを嶋田久みとぶを
行よこせのあるこみをぬうろ
せられこうとこけをうてめけやどり
をえかりひをてどよ茅のいろみも
とうをそうこ笑こちこうこちひ
り
流行
いつのまりうびぐりこひをぐれ
雪ふる里とあれしこねどやこうこく

[illegible]と後[illegible]もせてあさなうきこ[illegible]
[illegible]せとあり[illegible]
せとあり[illegible]
[illegible]
[illegible]

うこそれと　細　雅たち
ぬ老人の物　師　源内伯
うの物　ぬ　ぬ　ぬ

愚按此歌のうち細流の出て人引ものとうてのまく嘆息のは流て人引ものとうてのまく
ぬるこのむとこころうりとそうひくこころゆてさなり 源内伯は紀要実者ゴ年七十六とそう
今は七十あまりあへり 源氏は世一等くらし
いまうしもそうう 細今文に年ありうう老のやうう源内伯は思ふも老ふりこうりの老うりあを
とく来 源内伯若年とうて人も分れとよう 老の年うう行ようあうすくとうふれ
このさうりよ 細源内伯の年ざうりよいうぐうりのお仲分れもうしくうるも出うるう
くうるし とうり
〈道の実ものう 細為実せいうぐ罪にとう絶ぐうりせいは不定ゑ源内伯はうくお
うくて作ううもせ
年のうぐ多のおうりうく 源内伯は年考
うげうう
て今のおうをくうびなう
行ううおしうぐうもあざ
やううぐてうう人の食ま
ぐくてとうひうぐて
あういとひもうくねせうう
くう

あうきうしとのうぐ出ぐうくうた年のは
分れのうう
ううるくうくうう人のいううもうりてのど
やうよとうひとうもううしてうぐし
うるいるすぐううぐめうすうせるうりと
出ぐうよ出あうれるうけ歌をとうう
ううめうきうようひうぐうやぐ
年ゆうれどうの歌うわうれねやの

ううてうう宮のうよはあう
ぬるうう花出ぐ出うゑ云
ううりうう出やのおやうは
いうりうの歌はよりあうび
うううう 細 すぐうめての語
う世せすぐ歌をううう
よはううう 盃この世と
云うよをうう師は世
うて歌方海歌をはうう
うう
ひうう海
細 うう天の真女也いうひ
ううもう語うう
ありううかいう花源内伯
のううやぐううてうう
ううもう月うおてうよう
めれは師光の月歌まうで
ていうう 細河海う松葉
みすうう和ぬうみのあ
うう出うもの月歌とう
但南附流仲の松葉まに
いうみう 代年うはうう
う但清少納云う反元補が奇

やううひうひううう出ううう
ううう
うう
分れを人てねも絶うよこのせうてはやと
ううう
ううう
ううう
うう
ぞや今のどうみぞうてすぐううて
ううぬるう出りてはいえうう
うう
うう
うう
うう
うう
うう
ありうう
うう
うう
うう
うう
うう
うう

いさらくてやうあるてんをの月をの花をも
くをしをしをあの月をとして冷しさ物よををる
をるうん いつでとを後ゆ月・又ゆ春の奥をを
ををを・堂ゆ相国奥よ河海よみくをを師 細の後ゆ一師をの月の後ををる八小野宮の
日記河海より引をり・奥よあり・堀のあをを をのよ八ををる花をよよをり・ひをあ立てをる
いるをを

しいでくをんてかりくるんををひいをとあ
やうまををを

と学ぶ者もあるべきことなり。されどこれに対して学ぶ者よりはいと劣めかるべきことなり。
ふるくよりとかくあり。光平盛衰記の内よりかくとかくあり。
とあるは何ものとかありてはあるとも平盛衰記の貞盛なりとかくはあるべきなり。
貞盛なりとかくはあるとも盛ふるくよりとかくあり不用なり。
とかくこれあるべきよ。
源の頼光盛人よりかくいとかくあるべきなり。
きこえやつるるきを後
ものあるべく
つるべ川　細川殿
あるべし　源
あるとかくもあれ
るまじくとかくいさらしまくいとかくよ
のあるまなりめでさあるべきなり
ゆめくいかにしげもあれ
なるべきよりかくいとかくあるべきなり
まくどるべきあるべきなり
うべけるあれどもよるべけとかくれを
もそなるべきなりかくあるべきなり
ちてなどいとかくあるべきなり

あるべきなり。
ふるくよりとかくあるべきなり。
けよ人のなどの　細川殿源の頼光
細川殿源の頼光源の頼光
せ　細川殿源の頼光
られなり下の詞はいかなるべ
とかくへーやうくなるべ
きなり
やうなるべの世人の
細川殿とかくなるべ
よりてなさべ
のつくよりなるべ
まるべくはひるべ
しとかく細川殿源の
べきなるべ
うべなるべ
とかくとなるべ
細川殿源の頼光
とかくとなるべ
けよ人のなどの　細川殿源の頼光
うとかくなるべ
みを世なるべ
海よりなるべ
のなどで愛ゆんつるべやとひるべ
いかるべくしるべ
べくそなるべ
をばなるべ
いかるべ
けれるべ
べきなるべ
べきなるべ
べきな

（略）

細 教化のんぶつ

世のんのはさぐまさを
盂蘭のんをとけまふまり
てこゆとうんとうとう
のうん往生四品僻地
うんぐもはんぶ幸
よりまつ

細 素尚にん
えんぐせろんまりこうろ
べし 長とりぐたて
ひろびまろぬるべ
たまはるうるあまと
とあ当丈素尚よいみえ
びまもこそあるつめと
ちろんしひ物語よ仏教多
かり

ますてやこうんも

細 盂蘭のんぶ第本巻にあり
しぐとうーまあてはまま
しまと 平 りまうんぐ
りうこととうどあひし
ぐとう

けまくこうんのびありこゆ
仏 盂蘭のびありこゆと
て盂 香流のびまりと盂
ぐく 彼円 愚按抄盂蘭盆
よりこぐで世のびあり
まりしくと後こうてゆ
とうくとうこうこうれこの
初の者こうあそこへまこ
こてびりこうれべとうま
と細盂こうこの盂のびまり
こうれ仏教こうや

いとうとうよゆのくまくよこばうりのてこ紀
人ぶわんぐこうよれ公とつくしゆくまんべ
これひとこうこうとこをこうこゆうこ
こうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこ
のこれこうこうこうこ
げゆこうこうこうこうこ
よりこうこうこうこうこ
世のんのこうこうこうこ
まて芳こうこうこうこ
これべ今こうこうこうこ
ぐこうこうこうこうこ

細 盂と彼と紀
細 同じ盂蘭
細 もこうこうこうこうこ
細 別脱これこ
盂こうこうこうこ
細 こうこうこうこ
経
経

細 [illegible]
それいかとそそるれち 師 それ、[illegible]
らとふさもあさるとハ自然よそんと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細 [illegible]

[illegible]

細 [illegible]

[illegible]

細 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

発孟諸秋の秋く芳るよあり
手まもるあけまを　細　香炉峯雪、撥簾看の句

雪まちづ　白　雪園
前上ゆりく
應和三年　国十二月九日　令
右衛志兼右衛尉常則
堆雪作蓬莱山
うゑぐのあるあみぐれき
細　上ようぐうとをるぐ
うをを表ちるみしりく
吹しうちうし
発一張　童いうぐをを
よきれどそれをめぎ
てあるあぐうちうを
うやあるあいうるぐき
めようきあるゆく　細　稽の
ゆびちぐけるき　発　常ハえ海
の華く花らしハの面り
ぐ　きしの姿く
わしハぐく　細　ゆうをきき
まを童乳ちうを紀ようを
面しくうを海く花ゆうを
けるうをかみし栄花お俗
るをは細あり作らハめき

てなり
あるざみぐも　細　女の家とりてうをハ面をとりくうえしあるぐれて扇ぐをとゆうてう
ちうをけうをし海の女房も武よハ色をとりぶうれ用を檜扇へ盃乳をとりをぐきうあに
女ハ有をうをてぐう有るのるをうふぐさぐりの用うてハるきう。

をうけぐれと　細　力を入て
ようまうをうんうをる
をうけハ金貨也発ちら
をとれうをうをちうり
金貨生ヌヲヒト　持仙寄
ふりをるゆよりうを
ゆうをまうて後ようをとり
しくをうく眼前ようを
やうのゆうき面りうき書
うを海く

ひうを也中文の中人よ書の
山・細　海の紙上へ海り後
中文ハ海書也ぞ山乃
うを海花をようてうを
伏又院後伏又後永仁の比
まぐハけるを後亦の紀
福ゆをみをうり義仏
なりうてゆを也とを
ハ花ゐををうをうをの千余

いをむしをよ
をうけぐれど　元の大をうをれハ和りをうを
をうけハ東のつまあるよあるを
てをうをうをハ東のつまあるよあるを
ようりをうをハ　保元　とを也中文の
中人よゆをの山つをれうをうを
をうをうをるれをとれめぐをくをれ
をうをを紙をるをしまうをれるをを
のゆりくをようけてをハ　蓄書のをを也ぬを　かうわぐをを
わうをれハけぐをくりてをを行く
保の者無を遂をうをてのをを
をうをハ海ををうををうををり
しををハをうをうををうををを

日の行よ者つみ〜〜ちうとゝ山伏ゝ出ゝ陰まつりうれば〜〜ねづこてゆ
ゆよ者の山伏とあつぬ者しをかうれば者の蓋ゆ也〜せ〜ゆ〜せ〜ゆ〜
度の内者よ作〜れ〜ち者ゝ者極ゆ〜ゆ也らせ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
みう者の山者〜〜よゆりよりうれば山者山長徳二年の者事也び物
作〜し寛弘のゝとうれ八一年〜ゝ山び事れ又者山よ八蓋人石毛器とゝうて
山と作く平石の者と落くゝゝゆゆうり元山中文八落者女院也世よ〜ゆ〜ゆ〜
者山八者〜ゆ者のゝ〜〜ゝいゝゝゆゝゝ花山院法楽歌の者の南北蓋に者
山作〜れく作文ゆ〜〜〜と八小右紀よみ〜〜ゆ寛和元年正月十日のゝとも也
〜〜ゆゝ　〜〜ゆゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝ〜〜〜

てあるとこそ、をつく
紙もかつひせらるべきあるこ
づひしうふとこ
あやしうもあるる
細源とゐとこの紙ゆ
ゆしきこと師
ようこうこと人の源と
ゐやこうるるあるし
きこうるるこ
もうふまいてあるく
氏 原氏の相勝月記のす
まのそこうあるけ
妙源のゆきこうもと思
あるこうれ梅あるる
してたくゆきこうこ
そこうのうるこ
と人のこうこのうこ 細紙
と梅あるうして内海
のこ梅のふるあこ
源氏の内相 西月義師
妙よ同し
このあるこ 細紙宗長
こうこうこあるこ
市のこうこあるる

秋尾ハ原とあるは四ふうひかれて源氏の紙もん
おくこうこうこうこうこうこうこうすぐるこうこうこうこうこうこうこう

女郎花

月のはげてるごとくに　笑のこと

しるしなくけるうんざれもわるくの　西施の笑

ゆるんのうれしかるべしとの　仮りて

ゆるんのうれしかるべしとの　仮りて

つるくはくるまのうしろ　笑

をよハ雪の如く一段雪もよ

ハ雪りしりとふ風

新古と雪もふ

とふハ雪もふ

とふハ雪もふ

哦　よの二字

俗の俗　哦　可思惟

りしとの俗

細　美の中　妙世の罪障　ほのく

ほのく

ほのく

五濁悪世 五濁ハ劫濁見濁煩悩濁衆生濁命濁

のらくや 細 各留守居茶

げにぬるの酒うりやまどらんと世ぐまと

花菜のかく盃一こ池中

華盡満花華 惣見性

何の花菜の匂ひ

ぞうりけりとく

生人各留半座東華

菓待我嗣浚同行人五會讃

けうこ人を 細 いるくるよるさひくれ行ぬこと生れはうりうこ夫とうりうこ八

こつせ川をこせうり